
令和3年度 事業報告書

学校法人龍澤学館

目次

1	学校法人の沿革等	1
2	学校法人の組織図	3
3	設置する学校・学科等	4
4	学生・生徒数の状況	6
5	理事・監事・評議員の概要	8
6	教職員の概要	9
7	事業の概要	10

1 沿革等

[名称] 学校法人龍澤学館

[設立] 昭和28年9月17日 龍澤福美が、盛岡市鷹匠小路に進学研究会を創立。
昭和38年3月14日 学校法人 龍澤学館として、岩手県知事より認可を受ける。

[建学の精神] 独立進取 研鑽努力

[代表者] 理事長 龍澤 正美 (平成6年9月就任)

[教職員数] 709名 (常勤教職員 290名、非常勤教職員 419名) ※令和3年3月1日現在

[事業内容] 私立学校法人として11校を設置経営している。

[設置・経営] 法人本部 住所 盛岡市大沢川原三丁目4番1号
電話 019-622-6357 F A X 019-623-3339
ホームページアドレス <http://www.tatsuzawa.ac.jp>

盛岡中央高等学校	盛岡市みたけ (全日制課程) 1学科 (通信制課程) 1学科
盛岡中央高等学校附属中学校	盛岡市みたけ
幼保連携型認定こども園 月が丘幼稚園・保育園	盛岡市月が丘
盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校	盛岡市中央通 10学科
盛岡外語観光&ブライダル専門学校	盛岡市大沢川原 8学科
盛岡医療福祉スポーツ専門学校	盛岡市大沢川原 10学科
専修学校盛岡中央ゼミナール	盛岡市大沢川原 1部門
盛岡公務員法律専門学校	盛岡市中央通 4学科
盛岡ペットワールド専門学校	盛岡市駅前通 5学科
盛岡看護医療大学校	盛岡市中央通 1学科
企業主導型保育所 盛医ひまわり保育園	盛岡市大沢川原

[関連会社・法人] ※ 人数は R3.3.31 現在

(株) IBCソフトアルファ (コンピュータソフト開発、機器販売、人材派遣)	社員数63名
(株) エムシーエス生涯学習センター (社会人教育、学習塾、教育ソフト販売)	社員数47名
(株) 岩手ビッグブルズ (プロバスケットボールチームの運営、スポーツに関する情報提供サービス)	社員数11名
社会福祉法人盛岡ひまわり会・緑が丘ひまわり保育園・盛南ひまわり保育園	(職員数43名)

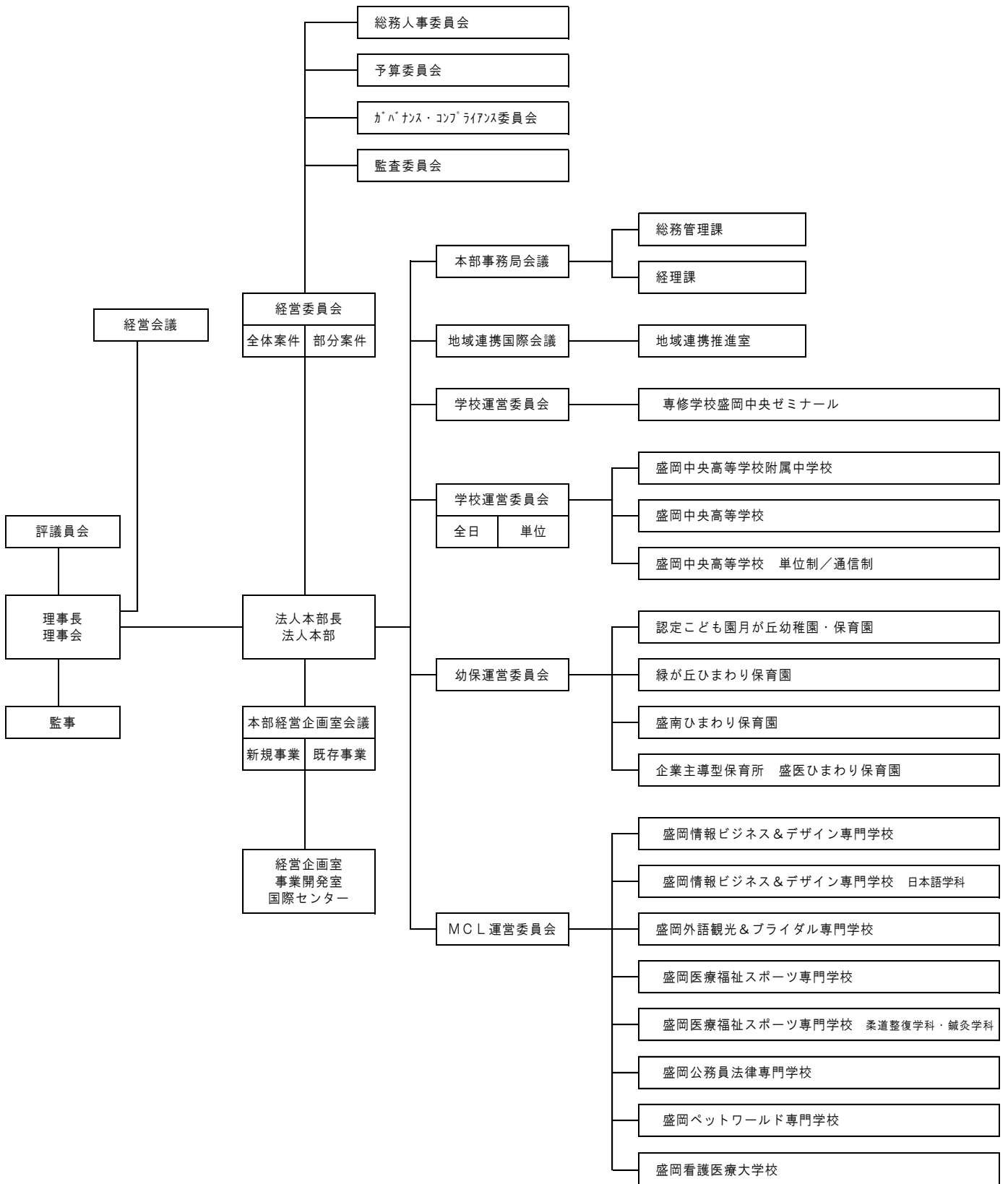
[沿革]

- 昭和28年 進学研究会 (高校受験・大学受験進学塾) 設立。
- 昭和33年 岩手県知事認可。龍澤予備校 (大学受験部・高校受験部) 設立。
- 昭和38年 龍澤高等学校 (普通科) 創設。
- 昭和53年 月が丘幼稚園設置、開園。
- 昭和59年 龍澤予備校創立30周年。新校舎完成移転。盛岡中央ゼミナールと校名改称。
- 昭和62年 盛岡情報ビジネス専門学校設置、開校。
- 平成2年 盛岡中央ゼミナールに河合塾サテライト講座開設。
- 平成4年 龍澤高等学校創立30周年。盛岡中央高等学校と校名改称。
- 平成8年 専門学校盛岡カレッジオブビジネス開校。
- 平成9年 盛岡医療福祉専門学校開校。
- 平成11年 (株) エムシーエス生涯学習センター設立。
- 平成15年 盛岡情報ビジネス専門学校 日本語学科開設。

- 平成16年 盛岡中央高等学校 単位制（通信制課程）開設。
- 平成17年 盛岡公務員法律専門学校、盛岡ペットワールド専門学校開校。
- 平成18年 盛岡医療福祉専門学校 柔道整復学科・鍼灸学科開設。
- 平成22年 緑が丘ひまわり保育園開園。
- 平成22年 (株)岩手スポーツプロモーション設立。
- 平成25年 緑が丘ひまわり保育園が社会福祉法人に移管。
- 平成27年 幼保連携型認定こども園 月が丘幼稚園・保育園開園。
- 平成28年 盛岡看護医療大学校開校。
- 平成29年 社会福祉法人盛南ひまわり保育園開園。
- 平成30年 盛岡中央高等学校附属中学校開校。
- 令和元年 企業主導型保育所 盛医ひまわり保育園開園。
- 令和2年 盛岡情報ビジネス専門学校を盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校と校名改称。
- 令和2年 専門学校盛岡カレッジオブビジネスを盛岡外語観光&ブライダル専門学校と校名改称。
- 令和2年 盛岡医療福祉専門学校を盛岡医療福祉スポーツ専門学校と校名改称。

(令和4年3月31日現在)

2 学校法人龍澤学館グループ 令和3年度組織図



3 設置する学校・学科等

盛岡中央高等学校【校長 千葉 研二】

〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ四丁目26番1号 電話 019-641-0458 / FAX 019-641-5533
 [全日制課程] 普通科 定員720名
 [通信制課程] 狭域普通科 定員500名

盛岡中央高等学校附属中学校【校長 千葉 研二(兼務)】

〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ四丁目26番8号 電話 019-641-0505 / FAX 019-641-5534
 定員210名

幼保連携型認定こども園 月が丘幼稚園・保育園【園長 下村 啓司】

〒020-0121 岩手県盛岡市月が丘二丁目7番5号 電話 019-645-1828 / FAX 019-645-1817
 [幼稚園部] 定員 221名
 [保育園部] 定員 29名

盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校【校長 工藤 昌雄】

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目2番17号 電話 019-622-1500 / FAX 019-622-1028

高度情報工学科	(4年課程 男・女)	定員 80名
総合システム工学科	(3年課程 男・女)	定員 60名
情報システム科	(2年課程 男・女)	定員 80名
ネットワークセキュリティ科	(2年課程 男・女)	定員 40名
情報ビジネス科	(2年課程 男・女)	定員 80名
会計ビジネス科	(2年課程 男・女)	定員 20名
ビジネス教養科	(2年課程 男・女)	定員 20名
総合デザイン科	(3年課程 男・女)	定員 60名
デザイン科	(2年課程 男・女)	定員 160名
日本語学科進学Aコース	(2年課程 男・女)	定員 60名
日本語学科進学Bコース	(1.5年課程 男・女)	定員 60名
応用日本語学科	(1年課程 男・女)	定員 20名
総定員740名		

盛岡外語観光&ブライダル専門学校【校長 龍澤 尚孝(兼務)】

〒020-0025 岩手県盛岡市大沢川原三丁目1番18号 電話 019-651-5001 / FAX 019-651-5015

ホテルビジネス科	(2年課程 男・女)	定員 40名
ブライダルビジネス科	(2年課程 男・女)	定員 60名
トラベルビジネス科	(2年課程 男・女)	定員 40名
ファッションショップビジネス科	(2年課程 男・女)	定員 20名
総合ビジネス科	(2年課程 男・女)	定員 20名
〃	(1年課程 男・女)	定員 5名
国際ビジネス科	(3年課程 男・女)	定員 30名
〃	(2年課程 男・女)	定員 20名
起業マネジメント科	(1年課程 男・女)	定員 10名
パティシエ科	(2年課程 男・女)	定員 30名
〃	(1年課程 男・女)	定員 5名
総定員280名		

盛岡医療福祉スポーツ専門学校【校長 龍澤 正美（兼務）】

〒020-0025 岩手県盛岡市大沢川原三丁目5番18号	電話	019-624-8600	／ FAX	019-624-8601
介護福祉学科	(2年課程 男・女)	定員	160名	
医療事務学科	(2年課程 男・女)	定員	80名	
こども福祉学科	(3年課程 男・女)	定員	60名	
こども未来学科	(2年課程 男・女)	定員	100名	
社会福祉学科	(3年課程 男・女)	定員	60名	
心理福祉学科	(4年課程 男・女)	定員	60名	
スポーツ健康学科	(2年課程 男・女)	定員	40名	
歯科衛生士学科	(3年課程 男・女)	定員	150名	
		小計	710名	

(盛岡医療福祉スポーツ専門学校 柔道整復学科・鍼灸学科)

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目3番4号	電話	019-652-1189	／ FAX	019-652-1198
柔道整復学科	(3年課程 男・女)	定員	180名	
鍼灸学科	(3年課程 男・女)	定員	90名	
		小計	270名	

医療福祉総定員980名

盛岡公務員法律専門学校【校長 佐々木 博（兼務）】

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通二丁目1番20号	電話	019-653-5061	／ FAX	019-621-2202
公務員ビジネス科	(2年課程 男・女)	定員	160名	
〃	(3年課程 男・女)	定員	30名	
公務員専攻科	(1年課程 男・女)	定員	40名	
公務員上級学科	(1年課程 男・女)	定員	20名	
キャリア総合学科	(2年課程 男・女)	定員	40名	
		総定員	290名	

盛岡ペットワールド専門学校【校長 工藤 昌雄（兼務）】

〒020-0034 岩手県盛岡市盛岡駅前通10番16号	電話	019-604-1151	／ FAX	019-604-1156
動物看護師科	(2年課程 男・女)	定員	50名	
ペット美容トリマー科	(2年課程 男・女)	定員	40名	
ドッグトレーナー科	(2年課程 男・女)	定員	20名	
動物飼育科	(2年課程 男・女)	定員	20名	(旧：ペットショップビジネス科)
ペットマスター科	(3年課程 男・女)	定員	45名	
		総定員	175名	

専修学校盛岡中央ゼミナール【校長 坂本 晋】

〒020-0025 岩手県盛岡市大沢川原三丁目4番1号	電話	019-622-6355	／ FAX	019-623-1888
大学受験科（高校卒生）		定員	250名	

盛岡看護医療大学校【校長 齊藤 恵子】

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目3番26号	電話	019-626-5300	／ FAX	019-626-5301
看護学科	(3年課程 男・女)	定員	120名	

企業主導型保育所 盛医ひまわり保育園【園長 菅原 信子】

〒020-0025 岩手県盛岡市大沢川原三丁目5番20号	電話	019-601-2166	／ FAX	019-601-2167
0歳児	定員	6名		
1歳児	定員	6名		
2歳児	定員	6名		
		総定員	18名	

(令和3年5月1日現在)

4 学生・生徒数の状況(令和3年5月1日現在)

(人)

学校名	学科名	令和3年度	
		収容定員	現員
盛岡中央高等学校	全日制課程 普通科	720	845
	通信制課程 普通科	500	475
	小計	1220	1320
盛岡中央高等学校附属中学校	小計	210	112
月が丘幼稚園・保育園	幼稚園部	221	151
	保育園部	29	25
	小計	250	176
盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校	高度情報工学科	80	22
	総合システム工学科	60	54
	情報システム科	80	118
	ネットワークセキュリティ科	40	28
	情報ビジネス科	80	69
	会計ビジネス科	20	0
	ビジネス教養科	20	0
	総合デザイン科	60	17
	デザイン科	160	121
	日本語学科	140	59
	小計	740	488
盛岡外語観光&ブライダル専門学校	ホテルビジネス科	40	29
	ブライダルビジネス科	60	58
	トラベルビジネス科	40	24
	ファッション・ショップビジネス科	20	9
	総合ビジネス科	25	14
	国際ビジネス科	50	63
	パティシエ科	35	12
	起業マネジメント科	10	0
	小計	280	209

(人)

学校名	学科名	令和3年度	
		収容定員	現員
盛岡医療福祉スポーツ専門学校	介護福祉学科	160	43
	こども福祉学科	60	24
	こども未来学科	100	63
	医療事務学科	80	61
	社会福祉学科	60	40
	心理福祉学科	60	38
	スポーツ健康学科	40	26
	柔道整復学科	180	156
	鍼灸学科	90	67
	歯科衛生士学科	150	23
	小計	980	541
盛岡公務員法律専門学校	公務員専攻科	40	40
	公務員ビジネス科	190	139
	公務員上級学科	20	3
	キャリア総合学科	40	10
	小計	290	192
盛岡ペットワールド専門学校	動物看護師科	50	48
	ペット美容トリマー科	40	33
	ドッグトレーナー科	20	16
	動物飼育科	20	17
	ペットマスター科	45	26
	小計	175	140
専修学校盛岡中央ゼミナール	大学受験科	250	131
	小計	250	131
盛岡看護医療大学校	看護学科	120	107
	小計	120	107
盛医ひまわり保育園	小計	18	5
合 計		4,533	3,421

5 理事・監事・評議員の概要

(令和4年3月31日現在)

理事 定員7～9名 現員7名 欠員0 監事 定員2名 現員2名 欠員0

区 分	氏 名	常勤・非常勤	備 考
理事長	龍澤 正美	常勤	法人理事長
理 事	齋 藤 隆	非常勤	元会社役員
理 事	富澤 正一	非常勤	元高等学校校長
理 事	黒沼 芳朗	非常勤	元会社顧問
理 事	阿部 正樹	非常勤	元会社役員
理 事	龍澤 尚孝	常勤	法人本部長
理 事	石塚 恭路	非常勤	会社役員
監 事	藤澤 克典	非常勤	司法書士
監 事	及川 邦雄	非常勤	行政書士

評議員 定員15～19名 現員17名 欠員0

区 分	氏 名	常勤・非常勤	備 考
評 議 員	龍澤 正美	常勤	法人理事長
評 議 員	山口 光昭	非常勤	会社社長
評 議 員	北田 義四郎	非常勤	会社会長
評 議 員	佐々木 博	非常勤	会社役員
評 議 員	黒沼 芳朗	非常勤	元会社顧問
評 議 員	齋 藤 隆	非常勤	元会社役員
評 議 員	龍澤 尚孝	常勤	法人本部長
評 議 員	富澤 正一	非常勤	前高等学校校長
評 議 員	遠藤 玲二	非常勤	会社社長
評 議 員	村上 貢一	非常勤	市議会議員
評 議 員	阿部 正樹	非常勤	元会社役員
評 議 員	龍澤 英宏	常勤	法人職員
評 議 員	高橋 秀実	非常勤	元法人職員
評 議 員	江刺家 永二	非常勤	元銀行支店長
評 議 員	小館 喜久雄	常勤	元銀行支店長
評 議 員	石塚 恭路	非常勤	会社役員
評 議 員	川上 圭一	非常勤	大学教員

6 教職員の概要（令和3年5月1日現在）

【専任教員】

(人)

	校長	副校長	教頭 副教頭	教諭	助教諭	養護教諭	講師	計
盛岡中央高等学校 全日制課程	1	0	5	26	3	1	20	56
通信制課程	(兼務)	1	1	5	0	-	7	14
盛岡中央高等学校附属中学校	(兼務)	1	1	6	0	1	4	13
合計	1	2	7	37	3	2	31	83

	園長	副園長	主任保育教諭	保育教諭	計
月が丘幼稚園・保育園	1	2	0	17	20
企業主導型保育所 盛医ひまわり保育園	1	0	0	3	4
合計	2	2	0	20	24

	校長	副校長/校長代理	教員	講師	計
盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校	1	1	14	5	21
盛岡外語観光&ブライダル専門学校	(兼務)	1	3	5	9
盛岡医療福祉スポーツ専門学校	(兼務)	1	12	28	41
盛岡公務員法律専門学校	(兼務)	0	10	0	10
盛岡ペットワールド専門学校	(兼務)	1	2	4	7
盛岡看護医療大学校	(兼務)	-	5	0	5
専修学校盛岡中央ゼミナール	1	0	3	4	8
合計	2	4	49	46	101

【専任職員】

(人)

	副校長	事務職員	実習助手	看護師	栄養士	調理師	運転手	計
法人本部事務局	-	20	-	-	-	-	-	20
盛岡中央高等学校 全日制課程	-	4	2	-	-	-	-	6
通信制課程	-	3	-	-	-	-	-	3
盛岡中央高等学校附属中学校	-	1	0	-	-	-	-	1
月が丘幼稚園・保育園	-	1	0	1	1	1	1	5
企業主導型保育所 盛医ひまわり保育園	-	1	-	-	-	1	-	2
盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校	-	5	0	-	-	-	-	5
盛岡外語観光&ブライダル専門学校	-	2	1	-	-	-	-	3
盛岡医療福祉スポーツ専門学校	-	14	1	-	-	-	-	15
盛岡公務員法律専門学校	-	5	-	-	-	-	-	5
盛岡ペットワールド専門学校	-	3	0	-	-	-	-	3
盛岡看護医療大学校	1	3	1	-	-	-	-	5
専修学校盛岡中央ゼミナール	-	3	-	-	-	-	-	3
専任職員合計	1	65	5	1	1	2	1	76

7 事業の概要

1 概況

少子化、県外流出の進行により、岩手県の人口は、年間1万人のペースで減少しており、地域の状況は厳しさを増すばかりである。これらに起因する課題を解決し、発展に導く担い手を育成することが、龍澤学館の大きな目標である。社会の変化に対応して求められる人材を送り出すため、当学館は、認定こども園、中学校、高校、予備校、そして専門学校6校を運営してきた。また、教育活動にとどまらず、地域の担い手として、持続可能な発展に積極的に関与するため、様々な活動を行ってきた。

2 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

(1) 当学館におけるコロナ影響

令和3年度は、前年に引き続き、コロナ感染拡大による影響を受けてきた。学級閉鎖や、休校、休園、講座や研修、行事のとりやめなどがあり、また、日本語学科では入国者がゼロとなった。対面や、県外での募集活動が難しかったこともあり、専門学校においては、令和4年4月の入学者数に影響が出た。

盛岡中央高校の国際教育フォーラムについては、令和2年度は中止としたが、当年度は新たな試みとして海外姉妹校とオンラインでつなぎ、開催した。

(2) 専門学校における医療系学科の統合

受験生にとっての選びやすさ、同じ厚生労働省管轄であることによる類似事務の効率化、広報活動の一元化などをねらいとして、盛岡医療福祉スポーツ専門学校の柔道整復学科、鍼灸学科、歯科衛生士学科を、盛岡看護医療大学校に統合することを決定し、そのための諸活動を行ってきた。令和4年4月1日にて統合がなり、盛岡看護医療大学校は、看護学科を含め、新たに4学科体制となった。

(3) 釜石市との連携

東日本大震災以来、釜石市と龍澤学館は、復興に向けた連携を継続してきたが、それをさらに発展させ、地方創生に寄与するため、専門学校の開校にむけた協定を新たに締結した。令和5年10月に日本語学科、令和6年4月に理学療法士学科を開講するべく、釜石市との協議や準備を継続中である。

(4) 盛岡中央高校

募集活動においては、Web出願を導入し、受験生や中学教員の利便性向上を図った。また、希望者の期待に応えるため総合Bコースを復活した。

教育においては、従来からの一人一台iPadを継続し、電子黒板を増設するなど、IT教育にさらに力を入れた。国公立大合格者は、東大など難関大を含み78名と、昨年56名に比べ増加した。

(5) きたぎんニュービジネスコンテストへの協力

(株)北日本銀行様の、コロナ禍における新たなビジネスモデルを検討している地元企業や、起業を考えている方に対する支援を通じて地方活性化を図る、との趣旨に賛同し、ビジネスコンテストへの協力を行なった。コンテストにおいては、専門家の指導も受けることができ、レベルの高い提案や、画期的なアイデアが掘り起こされた。当学館の専門学校の学生たちも挑戦したが、最終選考に残ることはできなかった。